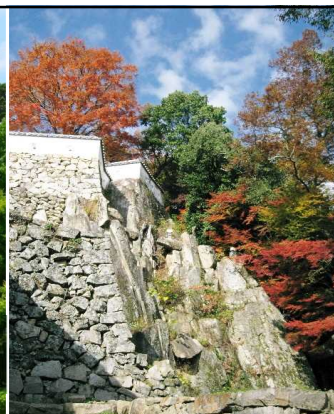


岡山県高梁市



備中松山城



城下町・高梁の北端にあり、「おしろやま」の愛称で親しまれている臥牛山（標高480m）。4つの峰の一つである小松山の山頂付近に備中松山城があります。全国には数多くの山城がありますが、国内で唯一、江戸時代の天守が現存している山城です。

なぜ300年も昔の山城が現代に残されているのでしょうか。それは天然の要塞ともいえ

る急峻な山の上にあり、攻略の難しさが生き残った原因とされます。

秋から春にかけての早朝には雲海が一面に広がり、備中松山城を波打つ雲の海の上に美しく浮かび上がらせます。そこにあり続ける天守の姿は今も壮大で、在りし日のものの方たちの鼓動が聞こえてくるようです。

江戸時代初期、頼久寺を仮の館としていた小堀遠州が作庭した名園です。愛宕山を借景とした蓬莱式枯山水で、絶妙な配置の石組や、大海波を表現するサツキの刈り込みなどが優れた美的景観を示しており、国の名勝に指定されています。



頼久寺庭園

高梁川に流れ込む紺屋川は、かつて備中松山城の外堀の役割を果たしていました。河畔には美しい桜と柳の並木道が続き、県下最古の教会である高梁基督教会堂や、藩校有終館跡など情緒豊かな町並みが広がっており、「日本の道100選」にも選ばれています。



紺屋川美観地区

吹屋の町並み



復元された弁柄工場



ベンガラ灯り



「ジャパンレッド」発祥の地 — 弁柄と銅の町・備中吹屋 —

標高約500mの高原上に忽然と出現する「赤い町並み」。かつて国内屈指の弁柄と銅生産で繁栄した鉢山町・吹屋です。

吹屋で生産された赤色顔料の弁柄は全国に流通し、社寺や工芸品を鮮やかに彩り、日本のイメージカラーである「ジャパンレッド」を創出してきました。

吹屋の豪商たちは、優れた意匠の町家を建築し、現在も残る美しい弁柄色の町並みを作り上げました。独特の景観を醸し出し、訪れる多くの人々を魅了しているこの町並みは重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

また周辺には、弁柄工場跡や銅山跡等も残っており、「ジャパンレッド」を創出した往時の繁栄をしのばせています。



岡山県高梁市



<高梁市成羽町吹屋地区>
JR 備中高梁駅からバスで約60分

<備中松山城>
JR 備中高梁駅からふいご峠（8合目）の間を土・日・祝祭日はシャトルバスが運行しています。ふいご峠から備中松山城へは徒歩で約20分です。